

市立高等学校改革について

I 熊本市立必由館高等学校目指すべき学校像(スクール・ミッション)

令和4年12月に策定された市立高等学校・専門学校改革基本計画(必由館高等学校編)を受けて令和6年4月開校予定の必由館高等学校に新学科「文理総合探究科」を設置するにあたり、目指すべき学校像(スクール・ミッション)の策定状況を報告するもの。

1 目指すべき学校像(スクール・ミッション)

熊本市立高等学校・専門学校改革基本計画(必由館高等学校編)に基づき、以下のとおり定める。

熊本市立必由館高等学校は、文理総合探究科を有する高校として、熊本市の未来を拓き、健康で心豊かな人生と幸せな社会を生み出す、次のような資質・能力を有したリーダーを育成します。

- ・多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- ・地域社会や国際社会に関する理解を深め、課題や魅力を見出す力
- ・分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- ・自己の興味・関心に気づき、深め、生涯にわたって学び続ける力

この目的のため、「市立ならでは」の次のような取組を行います。

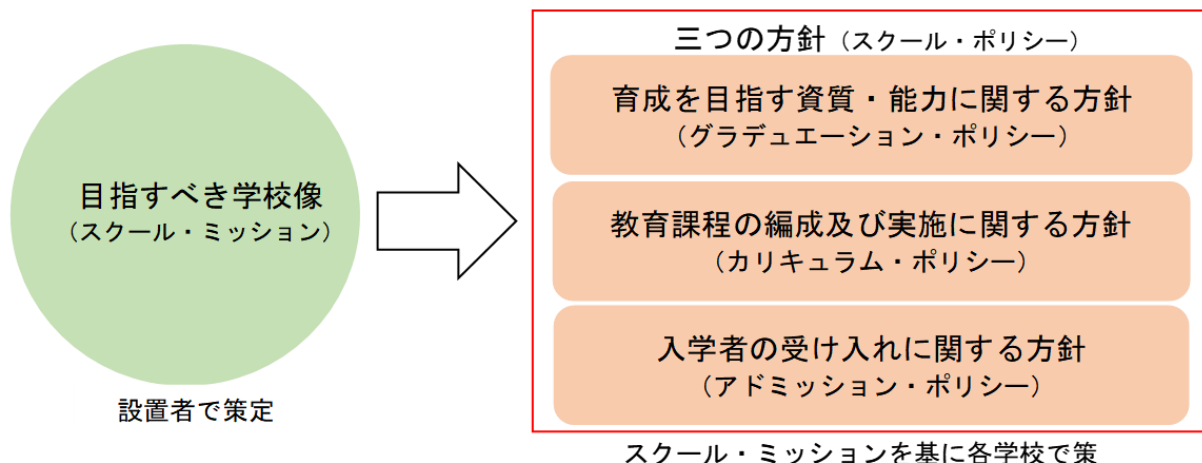
- ・多様な生徒一人ひとりが主体的かつ協働的に学校づくりに参画する機会の拡充
- ・市役所、市立専門学校、大学、企業等と連携・協働した課題探究型学習の推進
- ・文理の枠を超えた教科等横断的学習・探究的学習の推進
- ・持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育むキャリア教育の推進

【目指すべき学校像(スクール・ミッション)、教育方針(スクール・ポリシー)の位置付け】

熊本市教育振興基本計画(令和2年7月策定)

教育理念

「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」



【関係通知等】

(1) 目指すべき学校像(スクール・ミッション)の再定義

令和3年3月31日付け2文科初第2124号通知「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について」

第2 留意事項

1 高等学校に期待される社会的役割等の再定義及び三つの方針の策定・公表について

(1)各設置者においては、その設置する高等学校が三つの方針を策定する前提として、各高等学校やその立地する市区町村等と連携しつつ、各高等学校に期待される社会的役割等(いわゆる「スクール・ミッション」。)を再定義することが望まれること。(以下略)

(2)「学校教育法施行規則」三つの方針(スクール・ポリシー)の策定について

第103条の2

高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。

- 一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針
- 三 入学者の受入れに関する方針

(3)熊本市立高等学校・専門学校改革基本計画(必由館高等学校編)(令和4年12月策定)

○改革の基本理念

「自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。」

○学校の特色

- I 「市立ならではの」の特色ある学校
- II 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校
- III 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

【千原台高等学校の目指すべき学校像(スクール・ミッション)】

熊本市立千原台高等学校は、情報ビジネス探究科と健康スポーツ探究科を有する高校として、熊本市の未来を拓き、健康で心豊かな人生と社会を生み出す、次のような資質・能力を有したリーダーを育成します。

- ・多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- ・社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- ・自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

この目的のため、「市立ならではの」の次のような取組を行います。

- ・多様な生徒一人ひとりが主体的かつ協働的に学校づくりに参画する機会の拡充
- ・市役所、市立専門学校、大学、企業等と連携・協働した課題探究型学習の推進
- ・情報・ビジネス・健康・スポーツに関する実践的・体験的な専門教育の推進

2 必由館高等学校と千原台高等学校の目指すべき学校像(スクール・ミッション)の比較

必由館高等学校の目指すべき学校像については、学校からの要望や千原台高等学校の目指すべき学校像を踏まえ作成した。

	必由館高等学校	千原台高等学校
育成したい 資質・能力	・ <u>地域社会や国際社会</u> に関する理解を深め、課題や魅力を見出す力	・ <u>社会</u> に関する理解を深め、 <u>地域の課題</u> や魅力を見出す力
※必由館高等学校においては、様々な出あいを大切にしながら地域社会や国際社会への関わりと理解を深め、学校での学びは社会につながっていることを実感できる実践的・体験的な教育を実践する。国際コースを発展的に解消し、全コースに取組を広げるにあたり、すべての学科・コースにおいて国際理解に関する教育を実践する。		
育成したい 資質・能力	・ <u>分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力</u> ・自己の興味・関心に <u>気づき</u> 、深め、生涯にわたって学び続ける力	・自己の興味・関心に <u>応じて</u> 、生涯にわたって学び続ける力
※必由館高等学校においては、これからの社会で必要となる分野横断的、数理的なものの見方・考え方、それらを活用して表現する力を身に付け、社会・未来とのつながりを意識しながら、自ら学び、それを深めていく力を育む教育を実践する。		
「市立ならではの」取組	・ <u>文理の枠を超えた教科等横断的学習・探究的学習の推進</u> ・ <u>持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育むキャリア教育の推進</u>	・ <u>情報・ビジネス・健康・スポーツに関する実践的・体験的な専門教育の推進</u>
※必由館高等学校においては、データを科学的に分析・検証し、まとめ・表現する力を育成し、課題探究型の学習を進めることで幅広い進路選択に対応し、持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育む。		

Ⅱ 熊本市立必由館高等学校 スクール・ポリシー(案)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

- ①校訓である「至誠・進取・和敬」のもと、多様な価値観を認めあい、互いの価値を尊重できる人間性を育み、新たな社会の創造、発展を担う人材を育成する。
- ②確かな学力と柔軟な思考力を備え、**well-being** な社会を創造、発展させるために必要なリーダーシップを有し、主体的に協働できる力をもつ人材を育成する。
- ③幅広い知識とものの見方・考え方を身につけ、自己の興味関心に気づき、適性や能力を伸ばしつつ進路選択や目標へ繋げるとともに、地域や社会に貢献できる人材を育成する。

文理コース

- ④芸術に関する主体的な学びを通して専門的な知識・技能を身につけ、豊かな感性と柔軟な発想力、創造力を伸ばすとともに、地域や社会の共創に貢献できる人材を育成する。

芸術コース

- ⑤生活に関する総合的な知識・感性・実践力を身につけ、現代社会のさまざまな課題解決に向け、**well-being** の視点から、新しいライフスタイルのあり方をデザインすることにより、地域や社会の共創に貢献できる人材を育成する。

生活デザインコース

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

- ①多様な価値を尊重しあい、リーダーシップを有する人材を育成するために、生徒が主体的かつ協働的に参画できる学校行事や部活動、生徒会活動などを通して、新しい時代に求められる特色・魅力ある教育に取り組む。
- ②地域、行政、企業、大学などと連携・協働し、グローバルな視点で教科等横断的な学びを通して課題を分析し、論理立てて表現する課題探究型学習に取り組む。
- ③幅広い進路選択に対応したカリキュラムのもとで各分野について習熟し、興味関心に応じた学力の養成と社会共創に関わるグローバルな学習に取り組む。

文理コース

- ④芸術文化を取り巻く社会に目を向け、探究的な学びの中で専門的な知識・技能を習得し、豊かな感性を伸ばしながら社会共創に関わるグローバルな学習に取り組む。

芸術コース

- ⑤「衣」をはじめ、「食」、「住」などの生活課題について課題探究型学習を取り入れながら、地域と連携した実習や研修、社会共創に関わるグローバルな学習に取り組む。

生活デザインコース

アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

- ①中学校までの基礎学力を有し、自ら探究心を持って何事にも積極的に取り組むことができる生徒
- ②地域社会に関心を持ち、校内での学びを生かしながら生涯にわたって主体的に社会を創造していこうとする生徒
- ③学校行事や部活動、生徒会活動等に自らの思いや考えをもって協働的かつ意欲的に取り組もうとする生徒

Ⅲ 必由館高等学校 学科・コース名について

1 学科・コース名

学科名：文理総合探究科

コース名：文理コース・芸術コース・生活デザインコース

2 学科・コースの名称について

【文部科学省指針】

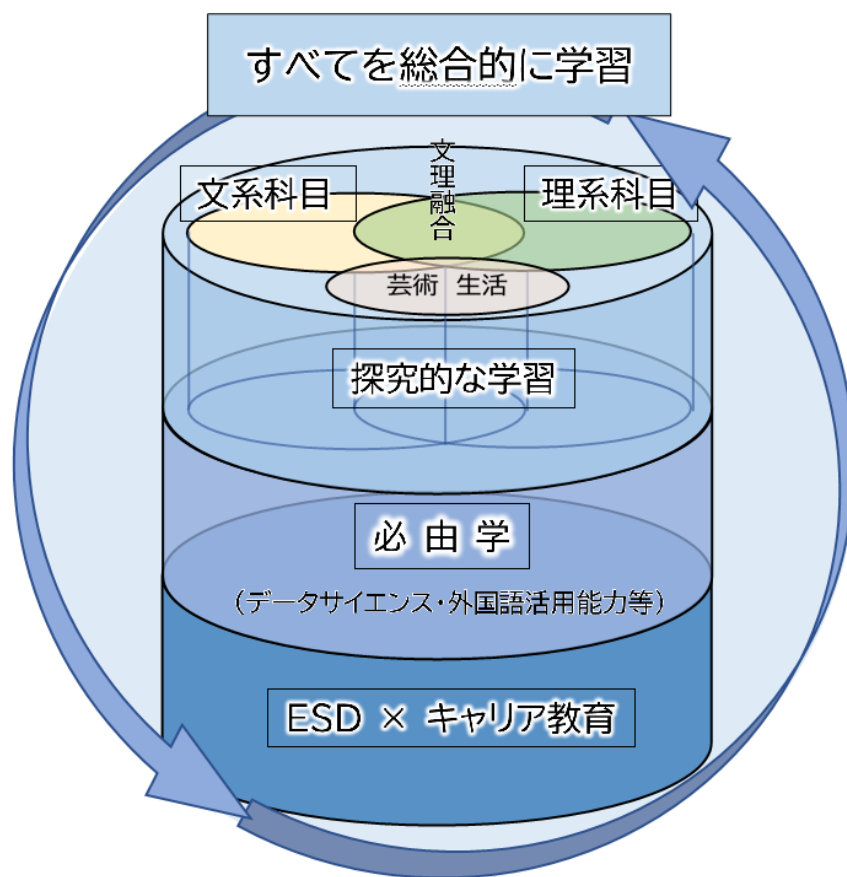
・新学科の名称は、学校外、とりわけ高等学校への進学を希望する中学生が当該学科における教育内容を想起しうるものとする。

【事務局・学校の方針】

・必由館高等学校への進学を希望する中学生及びその保護者、進路指導を行う中学校教職員等が該当学科・コースにおける教育内容のイメージをしやすい。
・主な進路先(進学)が想定しやすい。

3 文理総合探究科

文理総合探究科 カリキュラム構想のイメージ図



文系理系等の科目に加えて、探究的な学習、必由学、ESD×キャリア教育等すべてを扱う学科として名称を「文理総合探究科」とする。

4 各コース

○「文理コース」について

「文理コース」においては、1年次は共通のカリキュラムのもとで、幅広い知識とものの見方・考え方を身につけ自己の適性や能力に応じた進路を見極める教育を実践する。

2年次以降は「国際探究」、「文理探究(人文・サイエンス)」等、文理の比重を選択できるようにして生徒の興味・関心、多様な進路選択に対応した教育を実践する。

○「芸術コース」について

音楽系・美術系・書道系を持つ。文化・芸術に関連した課題探究型学習を中心に地域と連携した学習や研修、社会共創に関わるグローバルな学習を行う。

○「生活デザインコース」

社会に必要な質の高い豊かさの実現に向け、新しい生活スタイルの在り方をデザインできる総合的な知識・感性・実践力を養う。

5 (参考)最近の動向

○熊本大学

- ・「情報融合学環」の開設を計画
- ・理学部、工学部の一般入試においては「英語」が必受験科目
- ・文系の生徒でも理系の学部を受験できる制度を構築

○熊本県立大学

- ・総合管理学部等すべての学部において文理を問わず全学生が必履修の「情報処理とデータサイエンス」に関する科目を開設

○東海大学「文理融合学部」

- ・現代の複雑な問題を Society5.0で必要とされる情報活用能力と、文系・理系の枠を超えた視点でとらえ解決できる能力を身につける。課題解決や社会づくりを地域の視点で研究するとともに、それを実践していく人材を養成する。

○九州内大学の文理融合系学部

- ・九州大学「共創学部」
- ・長崎大学「環境科学部」
- ・宮崎大学「地域資源創成学部」

IV 令和6年度必由館高等学校

学科・コース編成、入学者選抜募集定員・人員等について(案)

1 学科・コース編成、募集定員

《現行》			募集定員	《令和6年度》			募集定員
普通科	普通	40名×6 クラス	360 名	文理総合 探究科 (新普通科)	文理コース	35名×7 クラス (245名)	305 名
	国際コース	40名×1クラス			芸術コース	30名×1 クラス	
	芸術コース	40名×1クラス			生活デザインコース	30名×1 クラス	
	服飾デザインコース	40名×1クラス					

2 令和6年度入学者選抜

(1)前期選抜 募集人員

《現行》			合計		《令和6年度》			合計
普通科	普通	—	60名	➡	文理総合 探究科	文理コース	122名(50%)	152名
	国際コース	20名(50%)				芸術コース	15名(50%)	
	芸術コース	20名(50%)				生活デザインコース	15名(50%)	
	服飾デザインコース	20名(50%)						

(2)後期選抜 募集人員

《現行》			合計		《令和6年度》			合計
普通科	普通	40名×6クラス	300名		文理総合 探究科	文理コース	123名	153名
	国際コース	20名				芸術コース	15名	
	芸術コース	20名				生活デザインコース	15名	
	服飾デザインコース	20名						

(3) 学区外(熊本市外)から入学を許可し得る数

《現行》			合計		《令和6年度》			合計
普通科	普通	24名(10%)	68名		文理総合探究科	文理コース	36名(15%)	60名
	国際コース	12名(30%)				芸術コース	12名(40%)	
	芸術コース	16名(40%)				生活デザインコース	12名(40%)	
	服飾デザインコース	16名(40%)						

(4) 前期・後期選抜別 学区外(熊本市外)から入学を許可し得る数

《現行》		前期	後期		《令和6年度》		前期	後期
普通科	普通	—	24名(10%)		文理総合 探究科	文理コース	24名(10%)	12名(5%)
	国際コース	8名(20%)	4名(10%)			芸術コース	9名(30%)	3名(10%)
	芸術コース	12名(30%)	4名(10%)			生活デザインコース	9名(30%)	3名(10%)
	服飾デザインコース	12名(30%)	4名(10%)			計	42名	18名
	計	32名	36名					

V 令和6年度千原台高等学校入学者選抜 前期選抜・後期選抜の概要について(案)

1. 千原台高等学校入学者選抜について

千原台高等学校入学者選抜においては高等学校の「目指すべき学校像」、「入学者の受入れに関する方針」、「入学者選抜の趣旨」を定め、多様な能力・適性や意欲・関心を持つ生徒を積極的に受け入れるために市独自の特色ある選抜を行う。

受検生が中学校3年間で取り組んできた成果及び千原台高等学校で学ぶ意欲・目標を以下により評価し選抜の資料とする。

前期選抜	後期選抜
学校独自検査(自己アピール書、面接) 調査書 実技検査※	学校独自検査 (自己アピール書、個人面接(自己表現、質問・回答)) 調査書 実技検査※ 基礎学力を問う、マークシート方式の学力検査

※実技検査は健康スポーツ探究科のみ実施

2. 千原台高等学校入学者選抜実施概要

学科	募集定員	前期選抜募集人員	後期選抜募集人員
情報ビジネス探究科	120人	72人 (募集定員の60%以内)	48人
健康スポーツ探究科	40人	28人 (募集定員の70%以内)	12人

スクール・ミッション (目指すべき学校像)
熊本市立千原台高等学校は、情報ビジネス探究科と健康スポーツ探究科を有する高校として、熊本市の未来を拓き、健康で心豊かな人生と社会を生み出す、次のような資質・能力を有したリーダーを育成します。 ・多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力 ・社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力 ・自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力 この目的のため、「市立ならでは」の次のような取組を行います。 ・多様な生徒一人ひとりが主体的かつ協働的に学校づくりに参画する機会の拡充 ・市役所、市立専門学校、大学、企業等と連携・協働した課題探究型学習の推進 ・情報・ビジネス・健康・スポーツに関する実践的・体験的な専門教育の推進

アドミッション・ポリシー (入学者の受入れに関する方針)
① 基本的な生活習慣並びに中学校までの基礎学力が身につけており、健康・スポーツ、情報・ビジネスに高い興味や関心を持つ生徒 ② 郷土を愛し、将来熊本市の発展にさまざまな形で貢献したいと考えている生徒 ③ 学校行事や部活動、生徒会活動などに意欲的に取り組む生徒 ④ 新しいことに積極的に挑戦し、これまでにない価値を創造しようとする探究心旺盛な生徒

入学者選抜の趣旨
【前期選抜の趣旨】 ○受検者の多様な能力・適性や意欲・関心、努力の成果等について優れた面を積極的に評価する。 ○実施する学校においては、それぞれの特性に応じた選抜を行うことで、特色化を積極的に進める。 【後期選抜の趣旨】 ○受検者の中学校教育における学習成果を総合的に判断する。

(前期選抜)

前期選抜		
学科	情報ビジネス探究科	健康スポーツ探究科
選 抜 方 法	① 学校独自検査(自己アピール書・集団面接) ② 調査書	① 学校独自検査(自己アピール書・個人面接) ② 調査書 ③ 実技検査
	① 学校独自検査 ・自己アピール書・面接 受検生は前期選抜出願期間内に自己アピール書を作成し高等学校へ提出する。面接では自己アピール書等をもとに各科で学ぶ意欲・目標及び中学校3年間で取り組んできた成果等を評価する。 ② 調査書 ・観点別学習状況、各教科の学習の記録(評定)、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項を選考資料とする。 ③ 実技検査については健康スポーツ探究科で実施	

(後期選抜)

後期選抜		
学科	情報ビジネス探究科	健康スポーツ探究科
選 抜 方 法	① 学校独自検査(自己アピール書・個人面接) ② 調査書 ③ 学力検査	① 学校独自検査(自己アピール書・個人面接) ② 調査書 ③ 学力検査 ④ 実技検査
	① 学校独自検査 ・自己アピール書・個人面接 受検生は後期選抜第1日目に自己アピール書を作成し高等学校へ提出する。面接では自己アピール書をもとに、市立高等学校・専門学校改革の基本理念にある「自ら考え、主体的に行動する力」、「多様な人々と協働する力」、「自らの人生とよりよい社会を創造する力」を身に付けて、千原台高校アドミッション・ポリシーにある生徒像を目指す意欲がどのくらいあるのかを評価する。 ② 調査書 ・多様な個性や才能を持つ生徒を受け入れることのできる活用法を検討中である。 ③ 学力検査 ・5教科: 国語・社会・数学・理科・英語 ・実施時間: 1教科 35 分 ※ただし、英語については英語問題 35 分+リスニング問題10 分 ・解答方法: マークシート方式 ・学力検査では基礎学力を問う。 ④ 実技検査については健康スポーツ探究科で実施	

(千原台高等学校入学者選抜見本問題 マークシート解答調査結果)

○ 令和4年 12月21日(水)～12月22日(木) 調査実施

調査結果(千原台高等学校入学者選抜見本問題)

1.調査対象

- ① 対象校:熊本市立中学校2校、第3学年11クラス
- ② 受検者数

教科	国語	社会	数学	理科	英語	5教科受検
合計	339人	341人	344人	340人	343人	332人

2.分析結果

① 入学者選抜学力検査問題としての有用性

- ・難易度は適当であり、平均正答率は66%であった。(令和4年度入学者選抜の平均正答率は46%)
- ・各教科、観点別(「知識・技能」「思考力・判断力」)の視点から適宜問題が出題されている。
- ・これらにより、市立高等学校入学者選抜学力検査問題の出題意図として基礎学力(中学校卒業時点において身に付けた「確かな学力」の平均的な学力)を見取る問題として適当である。併せて、千原台高等学校、必由館高等学校入学者選抜における選考資料としても適当である。

② マークシート方式について

- ・受検生へのアンケートから3割近い生徒がマークシートの受検は初めてであるとの結果が出たが、マークシート記入において混乱はなかった。
- ・教職員からの聞き取りでは解答用紙はマークの間隔、大きさともに適当である。
- ・現状では全問4択に統一しているが、偶然正答を回避できない。(消去法により実質2択になる問題もある)そこで問題内容に応じて4～6択とする。あるいは例えば数学、理科において択一式ではなく大学共通テスト方式を採用することが適当である。
- ・マークシート方式により採点業務負担は大幅に軽減される。

採点業務従事時間概算 ※受検生(令和4年度受検者127人)採点業務従事者(40人)として換算

マークシート	マークシート読み取り	得点換算	点検3回	合計
	1.5時間	1時間	1.5時間	4時間

現行	採点基準作成	採点(点検3回)	小問別得点入力	合計
	2時間	9時間	1時間	12時間

③ 試験時間の設定について

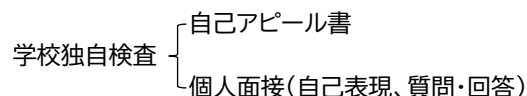
- ・試験時間は40分としたが、現状としては、ほとんどの生徒が30分で解答を終えていた。実際の入試では”見直し”も行うこと、また一問一問にしっかりと向き合う時間を確保できることを考えると試験時間は35分が適当である。

VI 令和6年度 千原台高等学校入学者選抜 後期選抜

「学校独自検査(自己アピール書、個人面接)」の実施及び評価の方法について(案)

1 後期選抜「学校独自検査」について

学校独自検査は、市立高等学校・専門学校改革の基本理念にある「自ら考え、主体的に行動する力」、「多様な人々と協働する力」、「自らの人生とよりよい社会を創造する力」を身に付けて、千原台高校の入学受け入れに関する方針にある生徒像を目指す意欲がどのくらいあるのかみるため、次により実施する。



2 実施方法

(1) 学校独自検査の内容及び方法

受検者は、高等学校に入学した後の自身にとっての学びのあり方、取り組んでみたいことやその目標、千原台高校での教育活動に対する意欲および、自分自身のこと(得意なことやこれまで取り組んできたことなど)やなどについてアピールする。

(2) 学校独自検査実施の流れ

第1日目: 自己アピール書の作成(35分程度)

受検者は、第1日の学力検査後に、自己アピール書を作成し高校へ提出する。

第2日目: 個人面接(自己表現、質問・回答)の実施 (自己表現3分以内、質問・回答12分以内)

- ① 提出された自己アピール書の写しを個人面接実施前に受検者に返却する。
- ② 個人面接: 自己表現後、検査官は、受検者が自己表現した内容に対する質問を行う。

(3) 学校独自検査の評価及び配点等

- ・学校独自検査の評価は、「学校独自検査 評価の在り方」に基づき行う。
- ・自己アピールの中で受検生の独自性が図れるような評価法を検討する。
- ・評価の対象は個人面接とし、自己アピール書に書かれた内容など自己アピール書自体は、評価の対象としない。

「学校独自検査 評価の在り方」(イメージ)

評価の観点			
ア 自ら考え、主体的に行動する力		イ 多様な人々と協働する力	ウ 自らの人生とよりよい社会を創造する力
評価規準			
自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めようとしている。		自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝えようとしている。	自分の興味や関心があることを「自分事」として考え、課題の設定しようとしている。
評定	評価及び評価の視点		
5点	☐ 「十分に満足できる」状況	☐ 「十分に満足できる」状況	☐ 「十分に満足できる」状況
4点	☐ 「おおむね満足できる」状況	☐ 「おおむね満足できる」状況	☐ 「おおむね満足できる」状況
3点	☐ 「努力を要する」状況	☐ 「努力を要する」状況	☐ 「努力を要する」状況

令和5年度広島県立高等学校入学者選抜 『自己表現』

自分自身のこと(得意なことやこれまで取り組んできたことなど)や高等学校に入学した後の目標などについて、自分で選んだ言葉や方法で表現する。

※ 特別支援学校（職業コース以外の知的障害を除く）についても、高等学校に準じて「自己表現」を行います。

[illegible]

VII 令和6年度千原台高等学校入学者選抜
後期選抜の日程について

1 令和5年度千原台高等学校入学者選抜 後期選抜 出願者数(実績)

健康スポーツ探究科	15名	(第2志望:情報ビジネス探究科 9名含む)
情報ビジネス探究科	90名	(第2希望:健康スポーツ探究科 13名含む)

2 令和6年度千原台高等学校入学者選抜 後期選抜 出願者数(想定)

健康スポーツ探究科	25名	(第2希望:情報ビジネス探究科 12名含む)
情報ビジネス探究科	100名	(第2希望:健康スポーツ探究科 15名含む)

3 令和6年度千原台高等学校入学者選抜 後期選抜の日程(案)

(1)第1日 学力検査、自己アピール書作成

- ・ 学力検査(5教科: 国語・社会・数学・理科・英語)
実施時間: 1教科 35分 ※ただし、英語については英語問題35分+リスニング問題10分
- ・ 自己アピール
実施時間:35分

集合 8:30	開始	終了	実施時間	休憩時間
国語	9:10	9:45	0:35	0:20
理科	10:05	10:40	0:35	0:20
社会	11:00	11:35	0:35	
昼食	11:35	12:25	0:50	
英語	12:25	13:10	0:45	0:20
数学	13:30	14:05	0:35	0:20
自己アピール書作成	14:25	15:00	0:35	

15:30~17:00 自己アピール書の確認(教職員)

私立高校の例

例) 国府高校

集合 8:30

	開始	終了	実施時間	休憩時間
国語	8:50	9:40	0:50	0:15
数学	9:55	10:45	0:50	0:15
英語	11:00	11:50	0:50	
昼食	11:50	12:40	0:50	
社会	12:40	13:30	0:50	0:15
理科	13:45	14:35	0:50	0:15
面接	14:50 ~			

例) ルーテル高校

集合 8:30

	開始	終了	実施時間	休憩時間
国語	9:00	9:50	0:50	0:20
数学	10:10	11:00	0:50	0:20
英語	11:20	12:10	0:50	
昼食	12:10	13:10	1:00	
社会	13:10	14:00	0:50	0:20
理科	14:20	15:10	0:50	0:20

(2)第2日 面接、実技検査

・グループ設定

グループ	志望学科	人数
S	健康スポーツ探究科のみを志望	13名
SB	第1志望:健康スポーツ探究科 第2志望:情報ビジネス探究科	12名
B-1	情報ビジネス探究科のみを志望	35名
B-2	情報ビジネス探究科のみを志望	50名
BS	第1志望:情報ビジネス探究科 第2志望:健康スポーツ探究科	15名

・面接体制

面接は個人面接とする。

検査員は1室あたり3名とする。

健康スポーツ探究科(25名)

面接室(4室)	1室	2室	3室	4室
グループ	S SB	7名	6名	6名

情報ビジネス探究科(100名)

面接室(8室)	1室	2室	3室	4室	5室	6室	7室	8室
グループ	BS B-1	7名	7名	6名	6名	6名	6名	6名
	B-2	7名	7名	6名	6名	6名	6名	6名

・面接時間

自己表現3分以内、質問・回答12分以内 + 採点等2分

・日程

健康スポーツ探究科

内容	グループ		
面接	S SB (25名)	集合	8:30
		開始	9:00
		終了	11:00
(昼食・更衣)			
実技	S SB BS (40名)	集合	11:50
		開始	12:00
		終了	14:00

情報ビジネス探究科

内容	グループ		
面接	BS B-1 (50名)	集合	8:30
		開始	9:00
		終了	11:00
面接	B-2 (50名)	集合	11:30
		開始	12:00
		終了	14:00

- ・情報ビジネス探究科の面接については受検生の待機時間が長くなりすぎないように工夫を検討する。(例：個々の集合時間をずらす。面接の室数を増やす等。)